

新聞と読書に親しみ、読解力を身につけよう！ 2026年盛夏

—2026年盛夏 高校生・中学生・小学生は、全員、新聞と読書に親しみ、読解力を身につけよう！—

開倫塾
塾長 林明夫

Q：高校生だけでなく、中学生・小学生も、新聞・読書に親しむ方がいいのですか。

A：その通りです。なぜか。

- (1)「読解力」とは、「文字や文章はじめ、様々な情報を正確に、論理的・分析的に、読み解く力」と考えます。この意味での「読解力」を身につけるのに、一番役立つのが、新聞と読書だからです。
- (2)新聞と読書に親しむことにより、高校生は、高校での勉強と、大学入試に不可欠な読解力が身につくからです。
- (3)中学生・小学生も、中学校や小学校での勉強と中学入試・高校入試に不可欠な読解力が身につくからです。
- (4)読解力が身についていないと、各学校での勉強もよくわからず、また、全教科、難しい、長文の文章が出題される最近の大学入試、高校入試、中学入試の入学試験の問題を、試験時間内に正確、論理的、分析的に読み解き、正解を導くことができないからです。読解力なくして、入試突破は困難です。
- (5)学校での勉強と、入試に欠かすことができないのが「読解力」だからです。
- (6)ですから、この読解力を身につけるために、高校生は高校生にふさわしいやり方で、新聞と読書に親しんでいただきたい。中学生・小学生は、中学生・小学生にふさわしい方法で、新聞と読書に親しんでいただきたい。塾生の皆様全員に、そう希望します。

Q：高校生、中学生、小学生はどのように新聞に親しめばよいのですか。

A：(1)高校生と中学生、小学生は、「全国紙」と呼ばれる、「読売新聞」「朝日新聞」「毎日新聞」「産経新聞」「東京新聞」「日本経済新聞」のうち、1つか2つを、毎日、30分以上、1面から舐(な)めるように読むと、世界や日本全体の出来事や、各県や東京の問題点・課題がよくわかります。高校での授業や、大学入試に役立つ「読解力」が身につきます。

○これらの「全国紙」は、数百万部、毎日発行され、家庭や職場、図書館に配達されています。

- (2)「地方紙」と呼ばれる栃木県の「下野新聞」、群馬県の「上毛新聞」、茨城県の「茨城新聞」なども、世界や日本のことが、よく書かれていますが、各県の出来事が地域別に詳しく紹介されています。東京都の各地域のことは「東京新聞」が一番詳しいようです。

○これらの「地方紙」も「数十万部」単位で毎日発行され、自宅や職場、図書館に、配達されます。地元である各県や、東京のことに興味がある皆様には、「全国紙」同様、「地方紙」も、「超おすすめ」です。

- (3)家で新聞を購読していない場合にはどうしたらよいか。「学校図書館」に毎日行き、新聞を読むことをおすすめします。「公共図書館」に、週に何回か行き、新聞を読むことをおすすめします。月に何回か、自分のお小遣いで、コンビニなどで、新聞を買い、隅から隅まで、一面から舐(な)めるように、新聞を読み、新聞に親しむことをおすすめします。

Q：新聞で身につくのはどのような力ですか。

A：(1)「自分で考える力」と、「批判的思考能力」です。

- (2)新聞の記事の多くは、「5W1H」(いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どのように、When、Where、Who、What、Why、How)で書かれているからです。

- (3)毎日、熱心に新聞を読み続けると、文章や情報を、速いスピードで、論理的、分析的、正確に読

み解く力が身につきます。この積み重ねが、自分で考える力、批判的思考能力の基礎となります。
もちろん、高度な文章や情報を読み解く「読解力」も身につきます。

Q：読書によって身につくのは、どのような力ですか。

A：(1)「読解力」はもちろん身につきます。「思慮深さ(深く考える力)」と「省察力(みずからを振り返る力)」も「読書」により身につきます。
(2)どのような本を読めば、このような力が身につくのか。各教科の学校の教科書で紹介されている本、特に、長い年月読み継がれている「各教科の古典」と呼ばれる本がおすすめです。学校図書館、公共図書館にある本もおすすめです。
(3)図書館のどこにどのような本があるかを知るには、学校図書館には毎日、公共図書館には毎月何回か通うことをおすすめします。新しい本は「本屋さん(書店)」で見ることができますので、町の本屋さんにも、時々行き、どこにどのような本があるかを知ることをおすすめします。

Q：本はどのように読めば、「読解力」や、「思慮深さ」「省察力」が身につきますか。

A：(1)本は、ゆっくり、ていねいに、一語一語、一行一行、一ページ一ページ、噛み締めながら読み、「著者との時空を超えた対話をする」ことです。大切な文章は、ノートに書き写し、その時考えたことを書き残し、繰り返し読む。
(2)本は最後まで読む。
(3)途中まで読んだ本を、読み直すときは、最初のページから読み直す。
(4)本は何回も読む。2回、3回、5回、10回と、何回も読む。
(5)気に入った本の著者が書いた別の本も読む。全集にも挑戦する。
(6)興味、関心ある分野(ジャンル)があれば、その分野の代表作にも挑戦する。
(7)大切な本は、これから何回も読むので処分しない。大切に、一生かけて何回も読む
(8)意味や読み方のわからないことが出てきたら、「気持ちが悪い」と考え、「辞書」を用いて調べる。辞書で調べたことは「意味調べノート」に「書き写し」、全部覚える。
○本は図書館で読む。学校図書館、公共図書館の「辞書」に親み、大いに活用する。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)AI時代に一番求められるのはどのような能力か。
(2)「自分で考える力」「批判的思考能力」「思慮深さ」「省察力」に裏打ちされた「読解力」です。さらには、AIを使いこなす「設問能力」、「AIとのさらなる対話能力」です。
(3)新聞に慣れないうちはどうするか。毎日、一箇所だけでも、新聞を読む。「天気予報」「人生相談」「まんが」のコーナーだけでも、毎日読み、新聞に慣れ親しむ。
(4)図書館の「英字新聞」にも毎日挑戦を。英字新聞は、面白さ抜群です。
(5)読書が苦手なら、まずは、図書館の「まんが」コーナーで読書を。まんがも読書です。「絵本コーナー」の絵本にも注目。「名作まんが」「名作絵本」にも慣れ親しむ。
(6)図書館の「イベント」、「朗読会」や「読書会」「ビブリオバトル(知的書評合戦)」などにもどんどん参加を。
(7)各教科の勉強だけで、「読解力」が不十分だと、大学入試、高校入試、中学入試は突破できません。様々な情報を含む、長文化する問題文を、試験時間内に、正確に読み解き、正解を導くには、「読解力」が欠かせないからです。
(8)開倫塾で学ぶ、開倫塾の塾生である間に「辞書・新聞・読書と、図書館を活用しながら親しむ」。そして、「読解力を身につける」ことをおすすめします。
(9)開倫塾の塾生の皆様の多くは、将来、大学で学びます。塾生の皆様は、大学生になったら「大学図書館」に毎日行き充実した大学生活を送ることをおすすめいたします。
○学校図書館、公共図書館、大学図書館を、塾生の皆様の「居場所(ほっとできる場所)」にしよう！